

還暦・古希・喜寿そして

# 傘寿談議

文・写真 (株)地域サービス代表取締役

## 永井 英彰

### 猛毒、眠気覚ましのコケも

### 京都御所、大徳寺へ研修旅行

コケの研究者少ない

2月22日、徳島文理大の浅川義範教授を剣山世界農業遺産支援協議会の野田靖之先生らと訪問した。

浅川教授は半世紀にわたってコケの成分研究を行い、これまでに600以上の論文と37冊の英文著書を出している。昨年、文理大学にタイ国王を招き、400名(内150名は外国人)が集まって「国際アジア植物化学協会」(浅川義範会長)を発足させている。今年も

9月に文理大で当協会が国際シンポジウムを計画している。

コケにカビ生えない

コケは4億年前に地球上に現れたが、海から陸に上がったらしい。その証拠にワカメ、コンブ、アラメと成分が似ている。コケは50年で40センチも成長するので、その頃の大陸は数十キロメートルもの高さだったと推定できるという。恐竜類は毎日8トンのコケを主食にしていたらしい。

浅川教室にはコケの標本がたくさん置かれている。

代表的なゼニゴケの他、なでると松茸の匂いになるハツカの匂いにするもの、屋久島のコケもある。先生の話では、白樺林に生えているコケは毒性が強く、食べると溶血しシヨック死の恐れもあるらしい。

ゼニゴケは甘くも苦くもないが、筋肉弛緩成分が含まれているようだ。コケの胞子は1万個もの上空を飛んでいるので、どこへでも付着する。浅川

先生は世界に3000種類あるコケの内、1000種類は調べたといい、いずれもコケにカビは生えないし、吸水力は綿の50倍もある。水中にあっては水銀や重金属を吸着するメリットがある。徳島なら上勝・山犬嶽のコケが圧巻である。ここではコケが岩を覆っており、地下水の温度が夏に10度も低いからである。

農業に活かせないか

コケを農業に使えないかについて浅川先生は「山形県では休耕田でスナゴケを栽培し、ビルの屋上に敷き詰めてヒートアイランドの温度を下げることに成功している。清水建設や鹿島建設ではコケシートを張り付けて温暖化防止に有効利用している」と話した。虫よけや吸水性を有効利用すれば、枕や布団などコケだけで商品化もできると、話はつきなかつた。

急傾斜地農法でシンポ

3月5日、東京大で「世界農業遺産と地域農業振興―日中韓の比較と経験交流―」の国際シンポジ

ウムが開かれた。農村振興比較研究会(代表・玉真之介徳島大教授)の主催だったので、11日、玉教授を訪問、研究資料を頂いた。資料の中に剣山系を視察してもらった国連大学の永田明先生、静岡大学の稲垣栄洋生成の研究資料が載せられていて、懐かしかった。

この日、同じ徳島大で剣山系の急傾斜地の世界農業遺産登録について考えるシンポジウムもあった。130人が参加、急傾斜地独特の農具などの基調講演やパネル討論があった。

渦潮高で学習発表会

2月17日、鳴門渦潮高校で「産業社会と人間」について全体学習発表会が開かれた。渦潮高校で講師を務めた商店街の代表ら7人と筆者が審査員に招かれた。鳴門金時芋やレンコンなどの地域特産品やスイーツなどについてパネルを使った素晴らしい発表がなされた。指導した林博章先生から「辛口の講評をして」と依頼されていたので、「パネルを使うのだから、原稿を見ずに話して」とあえて注



浅川教授囲みコケの勉強



屋久島のコケ



急傾地農法のシンポ(徳大で)



地域産業の発表会(鳴門渦潮高)

文を付けた。

### 谷口神父が来県

3月4日、バチカン市の谷口幸紀神父が来県した。前日の呼びかけだったが17人も集まり、昨年2月のバチカン訪問以来の再会を喜び合った。神父はトーマス・ハヌス指揮、キコの処女作「罪のない人々の苦しみ」公演準備のために帰国している。東京公演は5月7日夕方、サントリーホール。

### 「右近の橋」の実拾う

3月12日、四国大生涯学習センター主催で「枕草子の世界」京都研修旅行があり、筆者も参加した。最初に行ったのは左京区の平安神宮。ここは明治28(1895)年、平安遷都1100年を記念して開催された内国勧業博覧会の目玉として、平安



谷口神父と再会(南新町・石松で)



平安神宮の外拝殿  
(左下は右近の橋の防寒囲い)



拾った橋の果肉と種



京都御所に植わる漢竹



オガタマの古木(上)と花(北島・荒神社)



大徳寺の聚光院も特別公開

遷都当時の大内裏の一部が実物の8分の5の規模で復元された。平安遷都を行った桓武天皇を祀る神社として創建されたが、皇紀2600年にあたる昭和15(1940)年、平安京で過ごした最後の天皇である第121代孝明天皇が祭神に加えられた。社殿は新しいが平安京の大内裏の政庁である朝堂院を正確に縮小復元されているので価値がある。外拝殿は朝堂院の正殿である大極殿を模している。設計は伊東忠太、木子清敬、佐々木岩次郎の3人。伊東忠太は最初の文化勲章受賞者である。

文化勲章は日本橋の花をデザインしたものである。大極殿の左右に左近の桜、右近の橋が配置されている。たまたま橋の近くに行ったら実が生っており、道に1つが落ちていた。ラ

ッキーと喜んで拾って帰った。果肉を割って玄關前のワイン樽の上に置いていたところ鳥に食べられた。しかし、種2粒だけは残してくれたので、ポットに植えて発芽を待っている。

### 京都御所へは二度目

数年前、拝観したので今回が二度目。前回も四国大からの研修旅行と思い、引率の田中省造先生に確認したら「初めてだ」という。現在の京都御所は旧大内裏より縮小され一条大路の東隅にあり、築地堀に囲まれた南北約450m、東西約250mの方形で、面積は約11万平方m。

私たちは参観者出入り口である清所門から入り参観者休所で説明を聞いた後、南へ回り御車寄、諸大夫の間、殿上の間、新車寄、正門である建礼

門へ着く。ここから承明門に入り、メインの建物・紫宸殿を遠くから拝観。右近の橋、左近の桜が配置されている。橋は防寒の覆いを外している最中で、桜は開花まで後少しという所である。皇族の出入りする建春門を遠くに眺め、日華門、宣陽殿、春興殿を過ぎ、紫宸殿の裏に回る。そこが清涼殿で左右に呉竹、漢竹が配されている。清涼殿はもともと天皇の日常生活の場として使用されていたが、別棟として常御殿が建てられてから

は主に儀式の際に使われた。次は小御所。王政復古の号令が出された「小御所会議」はここで行なわれた。蹴鞠の庭を挟んで御学問所があり、御三間、剣爾の間まで見学して引き返す。東側には回遊式庭園の御池庭がある。御三間の前に黄心樹の

古木がある。オガタマの木は常緑の喬木で春に白い花を咲かせ秋にぶどうの房のような果実が実る。この房状の果実の形は巫女の振る鈴を連想させる。昔は神として神に捧げた木で、靈魂を招く木として神社に植樹された。そういえば地元北島町の荒神社にも町指定文化財のオダマキの木がある。後にはもと来た道を引き返し、清所門から外に出た。

### 庭石は阿波の青石

最後は大徳寺塔頭の大仙院。ここは応仁の乱直後に造られた枯山水の庭が有名である。使われているのは阿波の青石。室町時代に建てられた方丈はわが国最古のもので、国宝に指定されている。襖絵に狩野元信の花鳥図、狩野之信の四季耕作図があり、いずれも重要文化財。三好長慶の菩提寺である聚光院が大徳寺に近い場所であり、2000円で特別拝観をさせていた。ここには千利休も眠っている。筆者はバスの中で大徳寺と聞いて、大仙院と聚光院を混同し喋ってしまった。恥ずかしい。